



特集 P 2
国際貢献・協力セミナー

事業報告 P 3~5
子ども日本語学習サポーター
研修会 ほか

外国人エッセイ 私の何でも自慢 P 6
カロリーナ・ヴァシレスカさん

Worldなんしょん Now?~岡山人からの便り~ P 7
太田 修子さん(マレーシア)

ボランティア活動しています! P 8
森元 亜紀子さん
(通訳・翻訳ボランティア)

作ってみよう!世界のレシピ P 8
ラペットウツ(ミャンマー)

JICA寄稿 P 9
物部 莉奈さん

イベントカレンダー P 10
地域共生サポーター養成講座・
研修会 ほか

おかやま 国際交流



講師の別所 哲也氏

令和7年10月12日(日)

令和7年度「国際貢献・協力セミナー」(岡山国際交流センター開設30周年記念講演会)

「映像が語る世界の現実と国際貢献の力ーショートフィルムが紡ぐ未来への道ー」

講師:俳優/国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア」代表 別所 哲也氏

主催:一般財団法人岡山県国際交流協会 共催:岡山発国際貢献推進協議会

後援:特定非営利活動法人岡山県国際団体協議会、JICA中国

秋晴れの空が広がるこの日、岡山国際交流センター開設30周年を記念して、県民の皆様の国際貢献への理解を深め、活動への参加を促すことを目指し、「国際貢献・協力セミナー」を開催しました。約90名の方々にご参加いただき、会場は熱気に包まれました。

講師にお迎えしたのは、俳優として映画、テレビ、舞台、ラジオと幅広くご活躍されるとともに、国際的な視点から社会貢献活動にも深く関わられている別所 哲也氏。舞台やスクリーンで人々を魅了する俳優としての姿とはまた違う、新たな一面を見せてくださいました。
(次ページへ続く)

特集 令和7年度「国際貢献・協力セミナー」(岡山国際交流センター開設30周年記念講演会)

「映像が語る世界の現実と国際貢献の力 —ショートフィルムが紡ぐ未来への道—」

令和7年10月12日(日)

講演会は、一般財団法人岡山県国際交流協会の野崎 泰彦代表理事による挨拶で幕を開けました。野崎代表理事は、これまでの30年の歩みを振り返り、協会の活動に関わってこられた方々へ心からの感謝を述べました。続いて登壇された来賓の岡山県県民生活部地域活性化推進監の藤原 いずみ氏は、参加者に向けて、国際貢献・協力活動への一層の理解と積極的な参加を呼びかけました。

そして、この日の主役である俳優・別所 哲也氏が登壇。ハリウッドへの果敢な挑戦や日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア」を主宰されるその情熱的な歩みは、夢を追うこと、行動を起こすことの尊さを語りかけました。



熱気に包まれる講演会



熱く訴えかける別所 哲也氏

続いて、別所氏が厳選したアジア、アフリカ、ヨーロッパの珠玉のショートフィルム6編が上映されました。短い映像の中に凝縮された国際理解や国際協力への問題提起は、私たちの心に力強く迫るものでした。別所氏の解説を通じて、異なる文化を持つ人々がお互いを理解することの難しさや、表層的な思い込みでなく、本質を見極めることの大切さを学びました。私たちは、映像が持つ無限の可能性、そして世界平和のためにショートフィルムが果たしうる役割を肌で感じ取ることができました。

「国際貢献・協力のためには、アクションを起こすこと」——ショートフィルムの可能性を信じ、自ら行動を続ける別所氏の、真摯な眼差しから発せられた力強いメッセージは、参加者一人ひとりの心に深く響き渡りました。国際貢献という壮大なテーマが、決して遠い世界の話ではなく、自分たちの日々の生活と繋がっていることを教えられたのです。講演後、参加者の誰もが、自分にできること、そして未来へ向けて静かに思いを巡らせている様子が印象的でした。

この記念講演会が、岡山から世界へと広がる新たな交流の確かな第一歩となることを心より願っています。

子ども日本語学習サポーター研修会

令和7年8月3日(日)

講師：大阪YMCA日本語教師会会員／神戸市教育委員会事務局小学校JSL教室支援員／
こうべ校内JSL研究会会員他 辻村 文子氏

辻村氏を講師に迎え、「子どもたちの明日に繋がる支援を！～ケーススタディから支援の可能性を探る～」と題した研修会を開催しました。

子ども日本語学習サポーター登録者および新規登録希望者、計45人(対面30人、オンライン15人)が参加しました。

研修では、成人学習者や日本人の子どもへの学習支援方法との違いや、支援の基本姿勢として「受け止める」「繋がる」「慈しむ」「積み重ねる」といった考え方などの重要性などを学びました。

続いて行われたケーススタディでは、学年や日本語レベルの異なる3人の子どもの事例をもとに、グループに分かれて意見交換をしました。現場での対応方法や学校との連携について活発な意見交換が行われました。



講師の辻村 文子氏



講師の話を真剣に聴く参加者



ケーススタディ中の様子

参加者からは「子どもをしっかり尊重することが大切だと学んだ」「子どもの持っている力を引き出すように対話していくことの重要性を実感した」といった声が寄せられ、学びと交流の両面で実りのある時間となりました。

※子ども日本語学習サポーターとは、申請のあった学校に向き、放課後に外国にルーツを持つ児童生徒の日本語学習を支援するボランティアです。

やさしい日本語研修会・にほんご勉強会&交流会

令和7年9月7日(日)



講師の劉典子氏

外国人やお年寄り、子どもなど、誰にでも伝わりやすい日本語、それが「やさしい日本語」です。意思疎通がしやすくなるので、心地よく安心して暮らせるまちづくりの大きな助けになります。一方で、簡単に思えても、いざ使おうとするとなかなか難しいもの。そんな「やさしい日本語」を習得するための研修会を吉備中央町で行いました。

16名の参加者のほとんどが初めての挑戦です。入門やさしい日本語認定講師であり、岡山県地域日本語教育コーディネーターの劉典子氏は「はっきり、さいごまで、みじかく言う」という「はさみの法則」と呼ばれるやさしい日本語のコツを丁寧に説明しました。

同じ時間帯、すぐ向いの会場では「にほんご勉強会」が行われていました。インドネシア、フィリピン、ミャンマー出身の10名の学習者は講師の岡山県地域日本語教育総括コーディネーター小川京子氏や吉備中央町の職員と一緒に、ゲームを交えながら数字や月日の言い方、自己紹介などの日本語を学びました。

後半は、やさしい日本語研修会の会場に、にほんご勉強会の参加者が合流し、グループに分かれての交流です。参加者は習得したばかりのやさしい日本語もしくは勉強会で練習した自己紹介文を会話に取り入れ、時には笑い声をあげながら交流しました。



「やさしい日本語」で
さまざまなやりとりが



お互いのことを知ろう!(交流会)



盛り上がるグループワーク(研修会)



初対面での会話練習(勉強会)

英語で話そう-Let's Speak English-

令和7年9月6日(土)開催

講師:岡山県国際交流員 カラン・スタークさん、カロリーナ・ヴァシレースカさん

ネイティブの講師とボランティアと共に、受付から解散まで英会話にチャレンジするイベント「英語で話そう-Let's Speak English-」を開催しました。40名の参加者は、イギリス、オーストラリア、カナダ、スコットランド、米国などのネイティブスピーカーと一緒に、英語によるグループトークやアクティビティで交流を楽しみました。



講師のカランさん(左)と
カロリーナさん(右)



“Interview Game”(インタビューゲーム)で
盛り上がる参加者

(グループトーク)”に移りました。

最初に“Your Past self(過去の自分へ)”をトピックとして、「過去の自分に何を伝えるか」、「もう一度見てみたい瞬間」などについて会話しました。次に、“Your Future self(未来の自分へ)”について、「タイムカプセルに何を入れるか」、「未来の自分へ残したいメッセージ」などのお題についてアイデアを共有しました。これらのトピックは日本語でも少し難しい内容でしたが、参加者は意見を出し合い、会場は笑い声と活気にあふれていました。



“Your Past self”, “Your Future self”の様子



“Would you Rather…”の様子

最後に、人気のアクティビティ“Would You Rather(どっちを選ぶ)?”を行いました。「宇宙に行くvs海の底に行く」、「普通の犬10匹vs巨大な犬1匹を飼うなら」、そして一番盛り上がった質問「たくさんのお金を持つvs真実の愛を得る」などのお題について、2つのうちどちらを選択するのか話し合いました。再び笑い声が飛び交い、会場はとてもよい雰囲気に包まれました。

「日常で普段考えないトピックが様々あったので、すごく面白かったです!」
「いろいろな国の方と英語で話すことができて、とてもよい刺激になりました」
「もっと思っていることを伝えられるように、英語を勉強したいです」など多くの感想が寄せられました。英語のみで行われた2時間は、英会話にしっかりと向き合い、参加者同士の交流も深まる、笑顔あふれるイベントとなりました。



講師と
ボランティアの
皆さん

ワールド・エクササイズ事業 ニュースポーツを楽しもう ～秋の国際交流運動会～

令和7年10月18日(土)

場所：岡山県総合グラウンド体育館（シゲトアリーナ）

共催：岡山県総合グラウンドコンソーシアム・チーム岡山（一般社団法人岡山県総合協力事業団）、
岡山県日中懇話会

協力：一般社団法人岡山県レクリエーション協会、特定非営利活動法人スポーツライフ'91天城

10月中旬とは思えないほどの暑さの中、今年度も岡山県総合グラウンド（シゲトアリーナ）でニュースポーツを通じた国際交流イベントを開催しました。

ニュースポーツとは、年齢・性別・国籍問わず、誰もが分かりやすいルールで楽しめるスポーツのことです。今回は以下の3種目を実施しました。

①カローリング

カーリングから発想を得た競技で、専用のストーンを滑らせて得点ゾーンを狙います。



②ラダーゲッター

紐でつながった2個のボールをはしごに向かって投げ、引っかけて得点を競います。



③ディスコン

目標となるディスクに向かって円盤を交互に投げ、目標により近づけた方が得点を得る競技です。



ニュースポーツを体験する前に、準備運動として日本のラジオ体操を実施しました。日本人にはなじみがあるラジオ体操を通して、外国人にも日本の文化に親しむよい機会となりました。

今回はボランティアも含めて12か国から参加者が集まり、日本人と外国人の割合はほぼ半々ずつでした。各チーム内では、ニュースポーツを通して国籍関係なく、チームメンバー同士で声をかけ合い、笑顔が絶えない和やかな雰囲気の中でプレーが行われました。

多くの参加者がこのイベントで「ニュースポーツ」を初めて知りました。それにもかかわらず、ニュースポーツに精通している協力団体の丁寧なサポートのお陰で、3種目実施も円滑に進めることができました。また、チーム対抗戦だったため、悔しさや喜びが入り混じる表情もたくさん見られ、活気のあるイベントとなりました。

最後に表彰式が行われ、上位3チームには賞状と景品が贈られました。表彰式では、優勝チームの名前が呼ばれると歓声と拍手が湧き起こり、最後まで笑顔あふれる国際交流イベントとなりました。



ラジオ体操の様子
(みんな息がピッタリ!!)



ストーンが中心に行きました☆



ラダーゲッターで、得点を決めました!!



子どもも楽しめました



表彰式（優勝チーム）



上位3チーム

外国人エッセイ

私の何でも 自慢

カロリーナ・ヴァシレースカさん

(スコットランド・ブロックスパーン出身)

●所属：岡山県国際課 国際交流員(CIR)

●日本滞在歴：2カ月



大学3年生のとき1年間留学し、この夏ふたたび来日。国際交流員として働くカロリーナさんに、ふるさとと日本への想いを伺いました。

出身地の紹介

私は、ポーランドのノベ・モストキ(「新しい小さな橋」という意味)という町で生まれ、自然に囲まれた農場で育ち、穏やかな環境で幼少期を過ごしました。

実家は有名な作曲家、ショパンが生まれた家から徒歩15分の場所にあります! 周辺には記念碑や博物館もあり、ショパンの歴史を感じることができます。これが私の町のちょっとした自慢です。

そして、家族とスコットランドのブロックスパーンという町で長く暮らしました。スコットランドは、イギリスを構成する4つの国の1つで、イングランドの北にあります。

スコットランドといえば、ウイスキー・バグパイプ・キルト・ハイランド牛などで有名ですが、私が一番好きなのは豊かな自然とお城です。湖(ロッホ)や914メートル以上の山(マンロー)も多く、美しい景色が広がっています。

マンローは草や岩が多く、日本の山のように木が生い茂っていないため、初めて見たときは、森があることに驚きました。



スコットランドの湖(ロッホ)と山(マンロー)

なぜ日本語を学び始めたか

多くの人と同じように、アニメをきっかけに日本に興味を持つようになりました。でも日本語を学んでいくうちに、日本とポーランドには意外な共通点が多いことに気づきました。

例えば、地域によって異なる伝統的な服や工芸があり、明るい色の花や葉っぱのモチーフが人気なところ。食文化も似ていて、キュウリの漬物やホルモン、餃子のような料理なども食べられます。

こうした文化の共通点や言語への興味から、エディンバラ大学で日本語と言語学を専攻しました。3年生のときに選びました。自然が豊かで、日本人と話す機会が多い場所を求

めて岡山に1年間留学することにしました。「岡山に留学する」と言ったら、周囲の人たちから「行ったことがない」とか「田舎だね」とよく言われました。でも私にとっては、これまで暮らしてきた場所と比べて岡山はとても大きく感じ、私が持つ「田舎」のイメージと違い



ポーランドのピクルス

ました。実際、岡山の人々はとても親切で、留学生活は忘れられない経験となりました。

私の自慢

日本は旅行しやすい国なので、1年で19県を観光することができました! 特に岡山県が一番のお気に入り、中でも犬島はとてもおすすめの場所です。

また、子どものころからスコットランドのお城が好きだったこともあり、日本でもお城に興味を持ちました。日本に現存する12の天守のうち、9つのお城を訪れました。今後も、まだ行ったことのないお城や新しい地域を訪ねたいと思っています。

今は、岡山県庁で国際交流員として働いています。再び岡山に住むことができて、本当にうれしいです。仕事を通じて、日本のさまざまな魅力を知ることを楽しみにしています。



エディンバラ城と桜の木



カロリーナ in 横浜

World なんしょん Now?

おかやまじん たよ
～岡山人からの便り～

今回は、シンガポールと橋でつながる
マレーシア最南端の都市、ジョホールバルに
お住いの太田 修子さんから多民族国家
マレーシアでの生活について伺いま
した。

おたのぶこ
太田修子さんと
かぞく
ご家族



私は現在、マレーシア南部の街ジョホールバルに、住
んでいます。

1997年に日本
代表がサッカー
ワールドカップ
初出場を決めた
「ジョホールバル
の歓喜」として記
憶している方もい



マレー系の料理 Kacang pool

るかもしれません。

マレーシアは、3大民族（マレー系・中華系・インド系）
を中心とした多民族国家で、食べ物、宗教、言語、文化
も多様でとても興味深いです。

例えば、言語一つをとっても、国語はマレー語ですが、
そのほかに英語、中国語、タミル語など家庭ごとに主な
言語が異なります。

6歳の娘は幼稚
園で英語を中心に
中国語やマレー語
も学んでおり、日
本との環境の違い
を実感します。



ハリラヤ（ラマダン明けのお祝い）に
合わせた装い

ほかにも、違い
は「新年」にも現
れます。

たとえば、マレー系の人びとはイスラム教のハリラヤ、
中華系は旧正月、インド系はディーパバリをそれぞれ自
分たちの「新年」として祝います。

そのため日本の「新年」で重要な1月1日は、マレーシア
では特別な日ではなく通常の休日と変わりなく過ごす
家庭がほとんどです。

私が言語や宗教以外に日本との違いを大きく感じる
ことに移動手段があります。

私は岡山で学生時代を過ごし、小学校は徒歩、中学

校は自転車、高校は電車で通学し行動範囲が年齢と
ともにどんどん広がっていききました。

しかしマレーシアは一年中熱い国なので、外を長時
間歩いたり自転車に乗ったりする人は多くありません。
私もジョホールバルの都市部を走る電車がいないため、
基本的には車かバス、タクシーなどを利用して生活して
います。学生はさらに移動手段が限られており、スクー
ルバスもしくは親の送迎で通学しているのが現状です。

そんな違いを感じる移動手段も今年12月以降に首
都クアラルンプールからジョホールバルまでをつなぐ電
車（ETS）が開通し、さらに2027年にはシンガポール
との間を結ぶ電車（RTS）も開業予定です。ジョホ
ールバルに電車が走ることによって起こる変化が今からと
ても楽しみです。

これから私の子どもたちも通学通勤で電車を使う日
が来るかもしれませんね。

このように、異国の地での生活は日本との違いを感じ
る部分も多く簡単なことばかりではないですが、違いを
楽しめるよう過ごしています。みなさんも機会があれば
ぜひマレーシアにお越しください！



マレーシア側から見た現在のRTS
（対岸はシンガポール）



旧正月のお祝い



「ことばにはいろんな意味がある」



「留学生プログラム」で
通訳として講師をサポート

30歳で岡山に引っ越してきて20年余りが経ちました。
学生の頃から通訳に関心があり、岡山でも仕事や協会でのボラ
ンティア活動を通して通訳を続けています。
「通訳・翻訳ボランティア」活動では、いろんな国や地域から様々
な立場で来られた方々にお会いします。そうした皆さんと日本の方
とのやり取りを通して通訳していると、ことばの意味は、話す人の表情や口
調などでニュアンスが変わるのだなと感じます。



もりもと し
森元氏

例えば「わからない」と言うことばひとつでも、
「わかりたい」という前向きな気持ちを込めたもの
であったり、または納得いかないという抗議の意思

を含んでいたり、言い方次第でことばの持つ意味合いは変わっていきます。
通訳・翻訳する際は、字面に引きずられず、ことばがその時その場所でもつ
意味をくみ取ることが大切だと感じています。

これからも、ことばに誠実に向き合って、多文化共生に少しでも貢献できるよう努めていきます。



イベント講師と通訳ボランティアの女子会

作ってみよう！
世界のレシピ

レシピ紹介者：
チョージンウーさん
(ミャンマー出身)



ラペットウツ(ミャンマーの歓迎の料理)

ラペットウツは、ミャンマーで最も有名な伝統的なサラダです。
発酵させた茶葉に、新鮮な野菜や揚げ豆、ナッツを混ぜると、香ば
しくてシャキシャキの食感が楽しめます。
ミャンマーの家庭では、友人や家族を迎えるときに温かい緑茶と一
緒に振る舞うことが多く、友情やおもてなしの気持ちを表す料理です。
ラペットウツは、日常の集まりだけでなく、結婚式や社交の場、さら
には外交の場でも楽しめます。
ぜひ、ミャンマーの味を体験してみてください！

おすすめの食べ方
～温かい緑茶やごはん
と一緒に～



材料 (2～3人分)

- 発酵茶葉(ラペット) ... 大さじ3
- キャベツ(千切り) ... 1/8カット
- 油 ... 大さじ2
- 小玉ねぎ ... 1/2個
- トマト ... 1個(薄切り)
- 焼きピーナッツ ... 大さじ2
- 揚げ豆や豆類 ... 150g
- ごま ... 大さじ1
- 揚げニンニクチップ ... 大さじ2
- ナンプラーまたは塩 ... 小さじ1
- 干しエビ ... 大さじ2(お好みで)
- ライムジュース ... 小さじ1(お好みで)

作り方

- ①発酵茶葉に油大さじ1、ナンプラー(または塩)、ライムジュースを加えて味付けします。
- ②大きめのボウルにほかの材料をすべて入れます。
- ③残りの油大さじ1を加え、全体をよく混ぜ合わせます。
- ④最後に、味を見て調整したら、簡単でおいしいお茶葉サラダ「ラペットウツ(Lahpet Thoke)」の完成です！

おすすめの食べ方: 温かいお茶と一緒に
楽しむか、熱々のご飯と一緒に食べて一
皿で満足の食事にしてもおいしいです。



発酵茶葉(ラペット)



カラフルで新鮮な材料を
準備しましょう



ミャンマーの
ラペットウツ、完成～！



JICA 寄稿

今回は、JICA海外協力隊員として2025年4月から2年間の予定で派遣されている物部莉奈さんからのメッセージをご紹介します。

ボタルデ
Botarde! (東ティモールの言葉で「こんにちは」)
JICA海外協力隊として東ティモールの小学校で算数教育の活動をしている、物部莉奈です。言葉も文化も違う環境で暮らすことは、不安や戸惑いの連続です。それでも現地の人々の何気ない挨拶や笑顔が、日々の心の支えとなっています。

教室では、子どもたちの騒がしさから授業が思うように進まず、先生たちも板書中心の授業に頼らざるを得ません。当初は目の前の混乱ばかりに目が行きましたが、徐々に教員研修の不足や子どもたちの学習習慣・家庭環境など、表面からでは見えにくい課題の存在にも気づくようになりました。私は今、歌を歌ったり、フラッシュカードやゲームを取り入れたり、身近な素材を生かして「学ぶって面白い!」と感じられる授業づくりを試みています。

岡山の育った私にとって当たり前だった教育環境が、どれほど恵まれていたのかを改めて実感しました。そんな気づきを胸に、今日も教室で子どもたちの小さな「できた!」の瞬間を信じて、前向きに活動していきたいと思っています。



休みの日にサンデーマーケットにて日本文化を教えた(物部さん、左から2番目)



多角形を鉛筆で作るアクティビティ



子どもたちが授業を受けている様子

国際協力に関するご相談は、岡山県JICAデスク(橋本)まで。

E-mail: jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp / 電話: 080-2934-8497

Facebook: <https://www.facebook.com/jica.okayama>



R7年度 日本語学習サポーター初期研修

当協会は令和6年度から3年計画で県からの委託を受けて地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業に取り組んでいます。

課題の一つが県内に10ある日本語教室空白地域の解消ですが、初年度の赤磐市に続いて、今年度は吉備中央町をモデル地域として教室開設の準備をしています。

日本語学習サポーターを育成する初期研修(全5回)では、県全体から広くサポーターが参加できるようにオンラインを主とし、今後地域で共に活動していくサポーターは対面で出会うように吉備中央町にサテライト会場を設置し、中継でつないで実施しました。

11月16日からは初期研修に並行して「きびちゅうおうにほんご教室」(全5回)を開講し、対話・交流型の日本語学習支援を行っていますが、サポーターにとっては学習者との交流を通じて、研修で学んだ知識やスキルを実践する場ともなっています。

- ① 9月6日(土)「地域日本語教室の役割」
- ② 9月27日(土)「日本語教育の参照枠
日本語能力の熟達度」
- ③ 10月19日(日)「日本語の知識」(対面のみ)
- ④ 11月16日(日)「日本語の教材・第二言語
習得論の知見」
- ⑤ 12月6日(土)「日本語学習支援の例」



いよいよ始まる初期研修!



学習者は何ができるようになりたい?

2月

地域共生サポーター養成講座・研修会

「地域共生サポーター」とは、県内在住の外国人住民の生活面の支援やコミュニケーションを助けるボランティアです。活動に必要な知識を講義や事例発表、ワークショップを通して学びます。外国人住民を支援したい方、ボランティアや多文化共生に興味のある方の参加をお待ちしています。

- と き 令和8年2月7日(土) 10:00~12:00(予定)
- 対 象 地域共生サポーター登録者及び登録希望者
- 参加費 無料 ●定 員 40名(要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課(1月上旬受付開始)

ボランティア交流会

ボランティア同士の交流を通し、ボランティア活動への理解を深めます。

- と き 令和8年2月11日(水・祝) 10:30~12:00(予定)
- 対 象 ①当協会ボランティア登録者(新規登録希望者も可)
②ボランティア活動に関心のある方
- 参加費 無料
- 定 員 40名(要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課(令和8年1月中旬受付開始予定)

2月

多文化共生コミュニケーションサポーター研修会

学校や行政機関の窓口等で外国人のサポートをする通訳ボランティアに必要な知識や心構えについて学びます。

- と き 令和8年2月28日(土) 12:30~13:45(予定)
- 対 象 岡山県国際交流協会の「多文化共生コミュニケーションサポーター」制度の登録者及び新規に登録を希望する方
※日本語とその他の言語で円滑に意思疎通ができる方
- 参加費 無料
- 定 員 60名程度(要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課(令和8年1月下旬受付開始予定)

災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)研修会

災害時に通訳・翻訳で外国人を支援するための知識を身につけます。

- と き 令和8年2月28日(土) 14:00~16:00(予定)
- 対 象 ①岡山県災害救援専門ボランティア(通訳・翻訳)登録者
②外国語通訳・翻訳の知識及び経験を有する方で、災害時の外国人支援に関心のある方
- 参加費 無料 ●定 員 60名(要申込み、先着順)
- 申込み 企画情報課(令和8年1月下旬受付開始予定)

会報誌アンケートのお願い 今後の参考にさせていただくため、ご協力をお願いします。

「美と祈りー近現代日本美術にみるキリスト教」(県立美術館開催)

令和8年1月5日(月)までにアンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名の方に、岡山県立美術館で開催される標記展覧会「(会期:令和8年1月9日(金)~3月1日(日))」のペアチケットをお送りします。発表は発送をもって代えさせていただきます。



▲アンケートフォーム



山下りん《ウラジミルの聖母》1901 白濁屋

美と祈りー近現代日本美術にみるキリスト教

●会期 2026年1月9日(金)~3月1日(日)

16世紀にキリスト教が伝来すると、日本の美術は、さまざまな形でその影響を受けてきました。とりわけ、西欧化を推し進め、キリスト教を解禁した明治以降、キリスト教の受容と日本文化への浸透が進み、キリスト教に関連する美術が生み出されてきました。本展では、山下りんによるイコン(聖像画)をはじめ、牧島如鳩や小磯良平、あるいは田中忠雄らの作品を展覧することによって、近現代日本美術史においてキリスト教が果たした役割とその重要性について掘り下げます。

会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供(年4回)
- メールマガジンの配信(月1回)
- 協会主催事業への参加費割引(団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員: 2,000円 団体会員: 10,000円
賛助会員: 30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL:086-256-2000 ※9:00~17:30(月~土曜日)
E-mail: kokusai@opief.or.jp

最新情報は、当協会のホームページやFacebook、X(旧Twitter)等で随時お知らせします。



ホームページ



Facebook



X(旧Twitter)



Instagram

一般財団法人 岡山県国際交流協会 企画情報課

☎086-256-2914 (月~土 9:00~17:00)

総務課 ☎086-256-2000 (月~土 9:00~17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905 (9:00~17:30)

[休館日] 12月29日~1月3日及び臨時休館日(ただし日曜日は貸室業務以外休み)

編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1
岡山国際交流センター内 一般財団法人 岡山県国際交流協会
☎086-256-2000(月~土 9:00~17:30)
☎086-256-2226

ホームページ: <https://www.opief.or.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/coolopief/>

X(旧Twitter): https://twitter.com/opief_okayama

Instagram: https://www.instagram.com/opief_okayama/

E-mail: kokusai@opief.or.jp